

## 心身共に健康な老後を過ごすには

小林 博文（市民ネット）



健康な老後を過ごすための健康診断や、医療・介護のプランニング支援の場である「地域包括支援センター」について質問する。

また、自身の人生最期について意思表示を行う「エンディングノート」作成配布の可能性を問う。

特定健診受診率の低い40、50歳代の率向上への施策は。

今後、個別に通知や電話による受診勧奨等を行う。

国民健康保険加入者以外の方の健診の受診率や結果を把握しているのか。また、その状況は。

静岡県のホームページなどの情報で概ね把握している。全県データ比で、男性でメタボや高血圧、糖尿病の有病者が、女性では糖尿病の有病者や肥満の割合が低い等の状況。

地域包括支援センターを増やすこと、行政が運営するメリットは。



困難事例への対応や増加が予想される介護予防ケアマネジメント業務の体制強化による市民の安心。市直営のメリットは、各事業との連携のしやすさなど。

エンディングノートの作成、配布の考えは。

現在、近隣市で発行されている冊子は内容を確認している。介護・保険・医療に関わる方のご意見を伺い、作成に向け、配布や活用方法を検討していく。

## 安心して暮らし続けられるまちへ

鈴木 直博（みどり21）



菊川市総合計画第3次実行計画が4月からスタートし、その中の政策として、防災力を高め交通事故・犯罪のないまちづくりを目指すとされているが…。

原子力災害が発生した場合児童生徒の安全確保は。

保護者への確実な引渡しが可能となるまでは校舎内で教員が保護する。原子力災害に対する各学校毎の避難計画は、今年度中に作成する。また、ヨウ素剤の配布方法など検討すべき課題は多くあると認識しており、今後も県、関係機関と協議を進め、計画の実効性を高めていく。

車の昼間のライト点灯運動は。

対向車や歩行者に自車の存在を知らせ、あわせて運転者に交通安全を意識させる効果がある一方、対向車からのパッシング、消し忘れによるバッテリー上がり等の課題がある。事故が多く発生する夕暮れ時の早目のライトオンを推進したい。

通学路となっている橋と、そのうち車歩分離が出来ている橋の数は。また、小川端橋の解決策は。

133橋中55橋。小川端橋の解決策は両歩道付きの全幅員16mの都市計画道路となっており、市全体の見直しの中で考える。なお、橋梁部のグリーンベルト、区画線の引き直しを予定している。

信号機に視覚障害者用付加装置（ブザー）の設置が進んでいない理由は。

市内5カ所に設置済み。問い合わせはあるものの、要望はない。



欧州での昼間ライトオン風景